豊田中学校だより　ＮＯ３　　令和８年７月１６日



故　郷



～学校と家庭・地域との連携を深めながら～

文責：学校長　須山 千才

妙高自然体験学習に行ってきました（１年）

７月７日（火）～８日（水）に１年生が、新潟県にある「国立妙高青少年自然の家」へ１泊２日の自然体験学習に行ってきました。１日目は、仲間と一緒に力を合わせて挑戦する「妙高アドベンチャープログラム」や、拾った枝を利用して自分だけのスプーンを作る「クラフト体験」などをしました。２日目は自分たちでカレーをつくって食べました。これらの体験を通して、今までよりも、さらに仲の良いクラスになりました。また、大自然の中で多くのことを学んだ２日間でした。



アドベンチャープログラム



クラフト体験



カレーづくり

職場体験学習がありました（２年）

７月７日（火）～８日（水）の２日間、２年生の職場体験学習がありました。生徒たちは、自ら選んだ職場で様々な体験をさせていただきました。下の写真は、その一部です。生徒たちを温かく受け入れていただいた企業・施設等の皆様、大変ありがとうございました。生徒は今後、自分の進路を決めていくわけですがが、今回の経験を是非、活かしてほしいと思います。そして将来、地元で就職し地域を支える若い力となってくれたらと願っています。



岳南消防本部



北信総合病院



アオキビルド

校長講話～高野辰之と鉄道～

高野辰之は下水内高等小学校の先生をしていましたが、どうしても国文学の勉強がしたいということで 22 歳の時に東京へ行きました。当時、飯山線は、まだありませんでした。永江の自宅から一番近い豊野の駅まで３時間かけて歩いて行きました。今ですと新幹線に乗って１時間 30 分ほどで行けますが、当時は豊野駅から東京の上野駅まで行くのに蒸気機関車で２日かかりました。

今でも、その頃の鉄橋が残っているということなので実際に行ってみました。長野県と群馬県の境にある碓氷峠の「めがね橋」です。鉄橋は高さ 31m。レンガで造られています。辰之先生もこの鉄橋を通って東京に行きました。どんな思いだったのでしょう。不安と期待が入り混じっていたのではないでしょうか。

この碓氷峠は急な山道だったので、この区間には 26 ものトンネルがありました。機関車の運転手が、トンネルの中で煙を吸って酸欠になり倒れることもあったそうです。そこで全国で初めての、電車を通す工事が始まりました。電気をつくるための火力発電所（燃料は石油）や、電気を電車用に変換する変電所が山の中に造られました。その頃の変電所が今でも残っているということなので実際に行ってみました。「旧丸山変電所」です。レンガ造りの建物が二つありました。当時、一つの建物には電気を変換するための機械が入っていました。もう一つの建物には電気を蓄える蓄電池が入っていました。

碓氷峠は、とても急だったので、普通の機関車では滑ってしまって登れません。そこで特別なレールを使って登ることにしました。ラックレールといいます。レールに機関車の歯車を掛けてゆっくりと登ります。ここで使っていた電気機関車が残っているということなので実際に行ってみました。「鉄道文化むら」です。機関車の下をのぞいてみると大きなが歯車が見えました。

辰之先生は 49 歳の時に故郷に帰ってきました。東京帝国大学で先生の論文「日本歌謡史」が認められ文学博士の学位が与えられたことをお祝いする会が開かれたからです。その４年前の大正 10 年に飯山線（当時は私鉄の飯山鉄道）が豊野～飯山間で開通しました。飯山鉄道の役割の一つとして千曲川～信濃川の電源開発があります。東京の電力会社も出資しました。最も大きな工事は、西大滝ダムの建設です。工事に必要な資材などを運搬しました。辰之先生は完成したばかりの飯山鉄道に乗り、替佐駅に降り立ちます。そこでは多くの村人が出迎え、博士となった辰之先生を歓迎したそうです。唱歌「故郷」の歌詞にある「志を果たして　いつの日にか　帰らん」の一節が実現した時でもありました。

足元を見ると今まで知らなかったことが見えてきます。皆さんも、なんでだろう？と思ったことを調べてみてください。



22 歳の頃の高野辰之先生



めがね橋



旧丸山変電所



大正時代の替佐駅